

## 資料－2

第50回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

2020年2月6日

# 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」改訂について

# 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業自然再生全体構想」改訂について

- 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」一部改訂については、第49回協議会（2019年2月22日）に修正状況を確認し、「読みやすさやデータの時点更新」等について意見照会を行った上で、照会結果に応じた修正を加え、第50回協議会において最終確認する予定となっていました。
- 照会の結果、意見を頂いた箇所が多かったことから、第37回維持管理・環境管理専門委員会で対応(案)を確認頂きました。
- 全体構想は当初作成時において十分議論の上作成されたものであることから、文章の変更や図表の加除は行わず、「読みやすさやデータの時点更新」の観点から必要最小限の修正に留めるものとし、以下の箇所を修正しました。

表 意見照会結果を踏まえた修正箇所

ページ	意見	修正
2	図中に大芦橋と太郎右衛門地区を追記	意見を踏まえて太郎右衛門地区を地図に追加しました。 ただし、大芦橋や他の橋梁は本地区に直接関係ないため追記しませんでした。
8	「エ. 入間川と支川」～「カ. 隅田川」の上に「荒川流域」等の見出しを追記	意見通り修正しました。
17	太郎右衛門自然再生地の位置のずれを修正	
19	縦断図の縮尺を見やすく修正、横断図に縮尺を追記	
33	樹林地が高木・壮齢樹化することによる極相化（単調化）してきている。 ⇒ 樹林地が高木・壮齢樹化してきている。（極相化は老齢化のこと）	意見を踏まえて下記に修正しました。 「樹林地が高木・壮齢樹化して低木が減少し単調な環境となってきた。」 P37も同様の表現があるため、修正（「極相化」の文字を削除）しました。
40	中池のムクノキ-エノキ林 ⇒ 中池のクヌギ-ムクノキ-エノキ林  ミドリシジミの食草となる若齢樹が少なくなることにより樹林が単純化することが懸念される。 ⇒ ミドリシジミの食葉となる若齢樹が少なくなることが懸念される	意見通り修正しました。
61	「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」の箱矢印から「自然再生全体構想」へ矢印を追加。「作成」の文字を矢印に付記。	
61	Step 1、2の表現と説明部分を修正。 自然再生事業実施計画（案） ⇒ 自然再生事業実施計画	
61	Step 3の説明部分を修正。 整備された自然再生地を守り、育てるため、多くの主体が参画・協働し、様々な活動を展開していく。 ⇒ 自然再生地を守り、育てるため、多くの主体が協議会に参画・協働し、様々な活動を展開していく。	

# 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業自然再生全体構想」改訂について

●なお、委員からの意見のほか、事務局側の再確認により追加修正がありました。

- ・修正ページ P42
- ・修正箇所 近年確認記録のない生物（文章・写真）
- ・修正内容 近年確認例のある「クイナ」が記載されているため、削除する。

P42

- ・ 太郎右衛門自然再生地では、現状よりも豊かな湿地環境があったとされている。特に現在乾燥化著しい上池でもかつては湧水によって開放水面が維持されていたとされる。
- ・ 過去に確認され近年確認記録のないタマシギ、~~クイナ~~、サクラソウなどが普通に見られるような湿地環境の再生が望まれる。
- ・ 荒川流域や利根川・江戸川流域で、関東地域における生態系ネットワークの形成を図るため、コウノトリを指標種とした自然再生が広域的に取り組まれており、太郎右衛門自然再生地でも同様の取り組みが望まれる。



タマシギ



~~クイナ~~

~~クイナ写真は  
リバーフェスティバル備センター  
川生物図典より~~



サクラソウ



コウノトリ

# 「荒川太郎右衛門地区自然再生事業自然再生全体構想」改訂について

●また、今回の改訂に伴い、全体構想の内容を転記している「生態系モニタリング報告書」（2018（平成30）年3月付け公表）の一部も修正します。

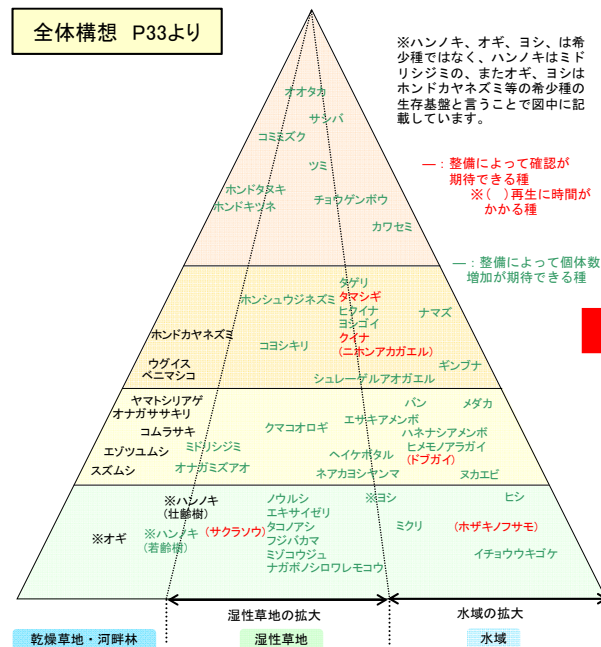
- ・修正ページ P2-3
- ・修正箇所 目標種を示す生態系ピラミッド
- ・修正内容 全体構想P43に準じた修正

※あわせて、動物の重要種情報は2018（平成30）年3月付けで公表となった埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）の情報に更新します。

荒川太郎右衛門地区自然再生事業  
生態系モニタリング報告書

【平成29年度版】

平成30年3月  
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会  
生態系モニタリング専門委員会



\* 現在、「メダカ」は「ミナミメダカ」、「ナガボノシロワレモコウ」は「ナガボノワレモコウ」となっている。また、「ドブガイ」は、「タガイ」または「ヌマガイ」の2種に分けられている。

図 2-3 自然再生の目標種

- 1) 「オオキトンボ」が抜けていたため追加
  - 2) 「キンブナ」は「キンブナ」であったため訂正
  - 3) 「クイナ」「ドブガイ」「ホザキノフサモ」は「整備によって確認が期待できる種」ではなく「整備によって個体数増加が期待できる種」であったため訂正（文字色変更）
- ※ほか、以下の種名変更（最新の分類に基づく変更）
- ・メダカ → ミナミメダカ
  - ・ナガボノシロワレモコウ → ナガボノワレモコウ
  - ・ドブガイ → タガイまたはヌマガイ（種が限定できないため注記表記）

※「生態系モニタリング報告書」は、2017（平成29）年度までのデータをまとめた「平成29年度版」を2018（平成30）年3月付けで公表しています。今回の訂正に際しては、当該箇所の「訂正」に留めるか、データ更新による「改訂」とするかについて、第42回生態系モニタリング専門委員会（2018年12月21日）で協議を行い、前者とすることとしました。